



所在地/鳥根県松江市
 学生数/約6000人
 学部/法文、教育、人間科学、医、総合理工、生物資源科学
 大学院/人間社会科学*1、教育学、医学系、自然科学
 ▶THE世界大学ランキング2020/総合1001+位、同日本版2020/＝81位
 *1 2021年度設置予定(設置申請中)

鳥根大学

CASE STUDY

探究心・好奇心を評価し、 大学教育につなげる



副学長 (教育・入試改革担当) **武田信明**
 たけだのぶあき ●1958年生まれ。鳥根大学法文学部言語文化学科教授。専門は日本近代文学。明治から平成まで、夏目漱石、太宰治、泉鏡花、江戸川乱歩から村上春樹まで幅広い作家を取り上げる。

2021年度入試より、高校生の探究心を評価する総合型選抜を導入する鳥根大学。学力偏重から脱却した高大接続型の育成型入試を実施する狙いを聞く。

大学で伸ばすタネを持つ 学生を集めたい

大学で伸ばしたい「学びのタネ」を持つ学生を見つけない。これが、本年から始める総合型選抜「へるん入試」(以下「へるん」)の狙いです。「興味・関心」や「探究心」など、学力テストでは評価されないものを見るため、共通テストは課しません。各自の「学びのタネ」を書いた志望理由書と高校での活動を記述するクローズアップシート、調査書や面接、読解・表現力試験で評価します。「へるん」を含む年内に行う特別選抜の定員は全体の32%。将来的には段階的に40%まで広げたい考えです。

「へるん」には一般型と特定型があり、特定型は地域志向やグローバル志向、特定技能など、プラスαの力を評価するほか、専門

性の強い「学びのタネ」を持つ専門高校生向けの枠を設けます。「学びのタネ」にこだわるのは、偏差値だけで評価される世界から脱却したからです。実際に偏差値だけで本学を選び、学力だけで評価されて入学した学生の中には、法学志望なのに六法も知らないなど、学びのタネが育っていない者もいました。学内では「学力の低い層が入ってくるのではないか」と心配もありました。しかし、2016年度入試から実施したセンター試験を課さない「地域貢献人材育成入試」の入学者は、PBLでリーダーを買って出るなど意欲的な学生が多く、手応えがありました。

これまでのセンター試験中心の入試は、言わば万能型の「優秀な学生を選抜するシステム」。18歳人口が減少する中、今後同じ土俵で戦えば、「優秀な学生は、偏差値上位の大学に進むでしょう。経営的にも新たな受験者層の開拓が課題です。そこで、本学は「特定の分野で輝く学生」を獲得する方向にかじを切ったのです。

探究学習に熱心な 高校の期待を受け止める

高校側からすると「へるん」は、

「探究学習でのがんばりを評価する」高大接続プログラムです。近年、地方の高校は探究学習に力を入れており、この活動を通して高校生が身につけた力を入試で評価してほしい、という高校側の期待がありました。「へるん」では調査書で生徒の探究学習をアピールしてくれたら評価します。入学前から探究で培った力を育てる手厚いサポートをします——このように訴えると高校教員はがぜん興味を持ちます。Webによる高校訪問では、「一芸」ではなく「大学で学ぶ意欲」タネを見る入試であること、そのために出願書類に具体的に何を書いてほしいのか、丁寧に説明しています。

「へるん」を成功させるには、学内の理解も必要です。学生を育てるのは一人ひとりの教員。今後の「へるん」拡大に向け、入学後の成績や意欲、学習時間等の定量的なデータと教員の実感なども組み合わせた検証結果を示し、現場の教員の心を動かしていきます。

このユニークな名称「へるん」は、本学の前身尋常師範学校で講師を務めたラフカディオ・ハーン（ラフカディオ・ハーン）の松江での愛称です。多方面で活躍した「へるん」にちなみ、学内で才能の多様性を実現できればと願っています。

へるん入試でつなぎ、発展させる生徒の好奇心と探究心

学びのタネ

高校	へるん入試(総合型選抜)	入学前教育	大学教育
「学びのタネ」を見つける	「学びのタネ」を大学につなげる	「学びのタネ」を育てる	
教科の授業、探究学習や部活動などで学びのタネを見つける ◎感動 ◎違和感 ◎疑問 ◎課題意識 ◎貢献意識 など	自分を見つめ、大学を知る 一般型 特定の領域・事象に対する強い好奇心と探究心重視 ①調査書+クローズアップシート(80点) ②読解・表現力試験(100点) ③志望理由書を用いた面接(100点) 特定型 ・地域志向 ・専門高校 ・グローバル英語 ・芸術・スポーツ・技能 上記に加え、各入試別「付加評価項目」	①アカウントを付与し、「ぶれ大学」のHP上で課題を与える ②英語のeラーニング ③1泊2日のセミナー *本年はオンライン開催の予定	各自の学びのタネに合った教員がつくフレッシュゼミナールで学びのタネをサポートする

注目! Web会議を駆使して、 高校と対話を重ねて理解促進

初年度の「へるん」の募集人員は全体の20%強。高校現場への早急な認知拡大が必須のため、コロナ下でもWeb会議システムを使い、積極的に広報活動をしている【右図】。各校の事情に応じた個別の情報を提供するほか、高校側の疑問にも答える。特設サイト「へるんスクエア」は高校生、高校教員への情報提供の入り口という位置付けだ。特にWeb高校訪問では多くの高校教員が参加し、一方的な情報発信になりがちリアルな高校訪問と比べて、質問が増え、意見や要望の吸い上げも容易になったという。加えてWeb会議の利点は、実際に生徒を指導する担任も参加しやすいこと。担任が「『へるん』に合いそうな生徒が実際に思い浮かぶ」ところまでアプローチができたという。



「へるん入試」の情報を集約し、受験生に提供する「へるんスクエア」。

Webを用いた入試広報の主な取り組み

取り組み	実施時期・対象	内容
Web高校訪問	4月から実施。対象は高校教員(3年生の担任、進路指導部など)。	「へるん」に関するオンライン説明会、質疑応答を実施。Zoomやメールを活用。
へるんスクエア	全国の高校生、高校教員、保護者に向けた特設サイトを開設。	「へるん」に関する情報の入り口として設置。ホームページで入試情報、学部学科情報等を配信。
Web入試説明会	6月から説明動画を配信。対象は全国の高校教員。	前年度の入試結果報告、今後の入試広報予定、「へるん」の説明動画などを配信。学部・学科ごとに高校教員に対するオンライングループ相談会を実施。

*鳥根大学のWeb広報の取り組みの詳細は、Between情報サイトで紹介している。「乗りろう! コロナ危機」 Web広報で高校に新入試を発信—鳥根大学 http://between.shinken-ad.co.jp/hu/2020/07/shimanedai.html

取材・文/本間学 撮影/伊東昌信